

平成 27 年度事業報告書

平成 27 年度の我が国の経済は、成長戦略を柱とする経済財政政策の推進により、緩やかな回復基調が続きましたが、新興国経済の景気減速の影響もあり、個人消費や民間設備投資に遅れがみられました。平成 27 年 11 月に政府は、「一億総活躍社会の実現に向けて緊急に実施すべき対策」を取りまとめ、雇用・所得環境の改善に取り組んでいます。

こうした社会経済情勢の中、当センターでは、地域社会の高齢者を勧誘して会員数の増強を図るとともに、新規契約の獲得のための様々な P R 活動を行い契約額の増大を目指す活動を続けてまいりました。

三鷹市内の 65 歳以上の高齢者は、平成 28 年 1 月 1 日現在 39, 127 人で人口の 21. 4% となっており、これらの高齢者の入会を促進するため、月 2 回のセンター内での入会説明会のほか、地域での出張入会説明会を行うなど、積極的な会員数の増加に努めました。しかし、高齢や病気などを理由に退会者も一定数あり、会員数は微増にとどまる状況でした。

今年度も市内の事業所などに出向いての P R 活動も行うとともに、会員募集とシルバーで請け負っている仕事の P R のチラシを作成して市内全域に配付し、会員数の増加と新規の契約獲得を目指しました。

これまでのシルバー事業は、請負・委任による受託事業を中心としたものでしたが、公益財団法人東京しごと財団を派遣元事業主として、三鷹市シルバー人材センターが事業所となる新たな派遣事業について検討を進め、平成 28 年度からの事業開始を決定して、派遣事業所の開設準備を進めました。

平成 27 年度は第 3 次中期計画の 2 年目であり、計画で掲げた 3 つの重点目標である「就業機会の拡大」、「センター基盤の強化」、「地域社会との共生」を目標に、センターの発展に努めました。

こうした平成 27 年度における当センター事業の取り組みに際し、三鷹市、東京都、国からご理解とともに多大なご支援をいただいたことに深く感謝いたします。

1 事業概要

平成 27 年度における三鷹市シルバー人材センターの事業概要は、次のとおりです。()内は前年度の実績。

会員数	1,597人 (1,591人)
	男 978人(970人) 女 619人(621人)
受託件数	11,185件 (11,178件)
契約金額	5億5,933万円 (5億7,485万円)
うち公共事業	1億1,566万円 (1億1,140万円)
うち民間事業	4億4,367万円 (4億6,345万円)
配分金	4億9,442万円 (5億0,746万円)
就業延人員	187,442人 (183,428人)
就業実人員	1,260人 (1,284人)
就業率	78.9% (80.7%)

これを前年度（平成26年度）の実績と比べますと、会員数は6人(0.4%)の増、受託件数は7件の微増、契約金額は1,552万円(2.7%)の減で、内訳は公共事業で426万円(3.8%)の増、民間事業では1,978万円(4.3%)の減でした。配分金では1,304万円(2.6%)の減で、就業実人員は24人(1.9%)の減となり、就業率は1.8ポイントの減でした。

2 事業報告

(1) 就業開拓提供事業

ア 「就業機会の拡大」は、第3次中期計画の重点目標の中で第一番目に掲げているセンターにとって最重要な事項ですので、就業開拓事業に取り組みました。具体的には、就業委員会が中心となり、高齢者介護施設等を訪問して出張生涯学習教室の提供の働きかけを行う活動や、マンション管理業務、施設清掃業務などの開拓、既存の発注者への訪問活動などを実施して業務拡大に努めました。公共事業については、諸活動の結果、市から新たに中原スポーツ児童遊園管理業務の契約を受託しました。

イ 適正就業について、今年度も就業現場の確認や契約書の内容精査を行い、法令の遵守に努めました。

ウ チョットサービスの包丁砥ぎは、井口班、中原班のほか、下連雀2班、牟礼1・2班、大沢班でも実施して好評を博しました。

エ 中原班では、シルバー事業の拡大のため、中原地域の市民を対象に「ご近助便利シルバー」事業を試行しました。

(2) 普及啓発事業

ア 地域社会に向けてセンター事業を広く宣伝することにより、就業等を通して社会参加を希望する高齢者への入会促進に努めまし

た。

イ 会員の丁寧で質のよい仕事ぶりや社会奉仕活動などの取り組みを通して地域の住民、事業所等の信頼を確保し、シルバー活動の普及啓発に努めました。

ウ ホームページの更新、「広報みたか」等市の刊行物によるPR、ケーブルテレビの活用、パンフレットの配付、チラシの市内全戸配付、他機関との共同PR活動、市役所ロビーでのシルバー人材センター展の開催、当センター2階で実施した生涯学習教室の作品展の開催、バスの車内アナウンスによるシルバーのPRなどで、より多くの市民にセンターの存在を知っていただけるよう努めました。

エ 地域班独自の活動として、公園清掃や野川・仙川などの地域清掃ボランティアを実施し、また児童等の登下校に際し安全を見守る安全安心パトロールに延べ約5,900人の会員が参加するなど、それぞれ地域に密着した活動を積極的に行いました。

オ センター全体の活動として、市内一斉清掃ボランティア活動を行いました。全地域班が同一日時で清掃活動を実施し、多くの市民から感謝されました。

カ 市民の行事として定着している「三鷹阿波おどり」「三鷹市民駅伝大会」に参加し、シルバーパワーをアピールしました。

キ 機関紙「かけはし」「事務局ニュース」「地域班だより」「ふれあい」の発行、地域班長会での理事会報告など、会員に対しセンターの活動や会員活動、就業情報の提供に努めました。

ク 植木班では、シルバー活動の普及啓発を念頭に、恒例の正月の門松作りを実施し、市役所、介護老人保健施設や特別養護老人ホームに贈呈し、感謝されました。

(3) 研修・講習事業

ア 会員がセンターの基本理念等を理解・賛同すること、及び就業・社会奉仕活動等に必要な知識や技能を修得することで、質の高いサービスの提供を実現し、さらに新たな就業機会を確保するために、研修・講習事業を実施いたしました。

また、センターの今後の重要課題である「派遣事業」についての理事研修を実施し、新たに始める派遣事業の推進のための共通理解を深めるように努めました。

地域班長・連絡員会議の場を利用し、センターの各種情報を共有する研修を行い、今年度新たに地域班長・連絡員になった会員

への研修会も実施しました。

(ア) センター独自の研修事業		参加者数
理事研修		
「労働者派遣事業について」	1回	14人
地域班長・連絡員会議研修	3回	343人
新任地域班長・連絡員研修	1回	7人
ホームヘルパー研修	9回	278人
新入会員研修	12回	179人
会員研修「コミュニケーション」	1回	48人
会員研修「安全講話・日常清掃の仕方」	1回	25人
植木班定例研修	11回	285人
(イ) 合同研修 (第5ブロック)		
理事研修「センターの派遣事業と派遣法」		
	9月16日	9人
安全就業のつどい「事故の未然防止研修・交通安全講話」		
	7月14日	10人
会員研修		
「脳卒中の予防とケア」	12月10日	8人
(ウ) 連合及び全シ協主催研修		
安全リーダー研修	7月21日	1人

(4) 調査研究事業

ア 自主事業について、現在の事業の評価や市民ニーズとのマッチングを検証し、業績の改善に努めました。

イ 第3次中期計画の2年度目であり、各部会、委員会、職群班等から報告を受け、計画の進捗状況の調査を行いました。

ウ 適正就業をさらに推進するため、各種業務内容の確認や契約書内容の見直しなどを行って、法令遵守に努めました。

(5) 相談事業

ア 入会を希望する高齢者に対して、センター施設内で毎月2回の入会説明会を実施し、地域での出張入会説明会も年2回開催しました。入会説明会では、仕事の体験談スピーチや、センターの概要説明も理事が交代で行いました。また、常時、市民及び会員を対象とした就業相談を実施しました。

イ 市の外郭団体と共同で、セカンドライフ相談会を開催し、定年後の就業や地域参加を希望する市民へ情報提供しました。

ウ これまで年1回だった就業説明会を3回実施したほか、センター玄関脇の掲示板に就業会員募集案内を掲出して、会員への就業情報の提供に努めました。

(6) 安全就業推進事業

ア 安全は、高齢者が就業等の活動を通じて社会参加をするうえで最も重要な課題と認識し、高齢者が健康で安心して就業等の活動に専念できるよう、安全意識の徹底と事故防止に努めました。

安全管理委員会や安全リーダーによる事故防止のための様々な安全施策を講じてきましたが、平成27年度の事故の発生件数は20件で、残念ながら前年度より10件の増という結果となりました。今年度は、その原因について検証し、事故減少に努めてまいります

イ 安全就業のしおり・安全就業基準の配付や、安全標語の募集、安全ニュースの発行、安全リーダー研修の実施等により、事故防止の意識啓発に努めました。

ウ 「健康・安全の日」、「重篤事故防止の日」の就業会員全員を対象とした安全ワッペンの着用による安全意識の高揚の取り組みや就業現場への安全パトロールなど、とくに重篤事故の防止に配慮しながら会員の安全就業の徹底に努めました。